◇ ＡＢベーシック　その２　ＡＢの活動理念 ◇

（アルペンブルーメの活動理念をＱ＆Ａにしてみました。）

Ｑ：アルペンブルーメはアルパインクライミングを推進するグループですか？

Ａ：山行推進グループ活動の目的は、練馬山の会において同じ志向を持つ者同士が集うことにより、その分野の登山活動を活性化させることです。そして、多くの分野で推進グループが生まれ、互いに刺激しあい活発に活動する結果、魅力溢れる総合山岳会として活力旺盛な新入会員を獲得し、練馬山の会のさらなる活性化へとつながります。登山のスタイルは多様化する一方ですが、総合山岳会としてアルパインクライミングは外せない分野の一つであり、アルペンブルーメがそれを担うことで練馬山の会の活性化へと貢献できれば幸いです。

Ｑ：以前、バリエーションルートを中心に活動するグループ「ツナの仲間」がありましたが、アルペンブルーメがその活動を受け継ぐということですか？

Ａ：「練馬山の会をアルパインクライミングが活発に行われる会にしたい」という志は同じです。現にアルペンブルーメのメンバー６名の内４名は「ツナの仲間」のメンバーであったし、さらに内２名は代表でもありました。しかし、年月の経過とともに皆すべからく歳をとります。同じように挑戦的なクライミングばかりを追求するには無理があります。

Ｑ：アルパインクライミングだけを追求するわけでは無いのですか？

Ａ：アルパインクライミングだけを追求できれば理想ともいえますが、現実には全てのメンバーが、クライミングに主軸を置きながらもオールラウンドな活動を行っています。「練馬山の会をアルパインクライミングが活発に行われる会にしたいとい」という志のみでつながっているグループだとも言えます。ですから今後ともグループ全体の目標をアルパインクライミングのみに絞ってメンバーを固定化することはありません。アルパインクライミングを意識しながらも、それのみに囚われることはなく、メンバー個々が自発的で多彩な登山活動を展開していきます。

Ｑ：アルパインクライミングを推進するグループが他にあっても良いということですか？

Ａ：できればクライミングに熱中する若者のグループが誕生することを望んでいます。そのためにアルペンブルーメでは、積極的に若い会員との関わりをもつ努力を惜しみませんが、ただやみくもにメンバーを増やそうとは考えていません。メンバーで有る無しにかかわらず、クライミングに関心を持つ会員がだれでも集いたくなるような溜まり場を提供し、そこに集ったもの同士がパートナーを求めあう中で、「やっぱり若者

は若者同士」というようにグループ化していくための母体となれれば良いと考えています。

Ｑ：アルペンブルーメのメンバーになるには何が必要ですか？

Ａ：クライミング技術の上手い下手は問ませんが、向上心とリスク管理は必要です。そして何よりクライミングが好きで、その面白さを他の会員にも伝えたいという気持ちが大切です。そのためにも主体的に登山を計画できること、自分自身の能力を高める努力を怠らないこと、そして無理な背伸びをせずに誘い合えることが大事です。アルペンブルーメのメンバーは、自主的、自発的、そして主体的な登山計画を年間１０回以上、その登山のリーダーとして提出することを目標にしています。

Ｑ：アルペンブルーメは何処へ向かうのですか？

Ａ：「若者は若者同士」のクライミンググループが誕生すれば、アルペンブルーメは、その役割を終えることになるかもしれません。しかし、次には「年寄は年寄同士」のグループが求められることになるでしょう。今は若くても、みな必ず年を取り、登山を続けるか否かの岐路に立たされます。その時、「たとえ年をとっても、少しくらいの故障を抱えても、こんな登山ができるんだよ。」という姿を示せたら、彼らの希望になれるに違いありません。高齢を理由に退会する会員をチョットだけでも引き留めておけるはずです。しかし、ずっと誰かに誘われて連れて行ってもらう山行を続けていたら、いつしかその誘いが途絶えることに気づくはずです。たとえ誘いがあったとしても、皆と同じように歩けないかもしれないと、参加を躊躇してしまうことでしょう。そんな時にこそ、自分の能力をしっかりと見極め、その時の自分にできることを自分のために自分自身が計画できなければなりません。何歳になっても登り続けるという意思をもって活動するグループがあって、互いに体の不調を自慢しあいながら、それでも競い合ってトレーニングしている姿を思い浮かべてみましょう。それはきっとキラキラと輝いていて素敵なことだと思います。

おわり